


名古屋城天守

- 名古屋城天守のあらまし
- 天守のあゆみ
- 金城温古録
- 昭和実測図
- ガラス乾板
- 宝暦の大改修
- 戦災による焼失
- 名古屋城天守の再建

名古屋城 天守のあらまし

名古屋城は慶長15年(1610)、徳川家康が、加藤清正・福島正則ら西国・北国の大名20家に普請(土木工事)を命じた天下普請の城です。中でも天守台石垣は大小とも加藤清正に命じられ、その年の内に完成しました。天守の作事(建築工事)は小堀遠州・中井正清らが行い、木曾の桧が多量に使用され、天守は慶長17年(1612)に築城開始から3年弱の間にほぼ完成しました。

天守の規模は大天守が5層5階地下1階、高36.1m、小天守は2層2階地下1階、高16.5m。大天守の延床面積は江戸城天守をも上回り史上最大を誇りました。御三家筆頭尾張徳川家の居城として栄えた名古屋城は明治維新後、陸軍省の管理を経て名古屋離宮となり、昭和5年(1930)、城郭建築における国宝第1号に指定されたのです。その後、第二次世界大戦中の昭和20年(1945)名古屋空襲によって天守は焼失、天守の再建を望む声の高まりによって、昭和34年(1959)、天守が再建されました。

- 
- 形式 ○層塔型連結式天守
構造 ○大天守5層5階地下1階、小天守2層2階地下1階
高さ ○大天守36.1m、小天守16.5m
延床面積 ○大天守4564.0㎡、小天守831.9㎡
建設期間 ○慶長15年(1610)～慶長17年(1612)
石垣は慶長15年(1610)に完成

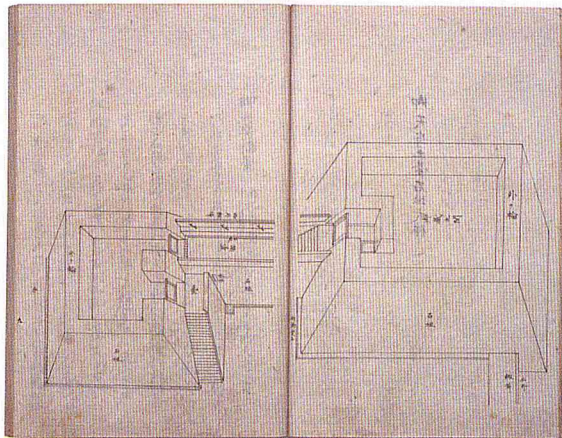
天守のあゆみ

年号	西暦	事項
慶長15年	1610	徳川家康の命により築城に着手
慶長17年	1612	天守、竣工
慶長20年	1615	本丸御殿、竣工
寛永11年	1634	本丸御殿改修、改修上洛殿などを増築
宝暦2～5年	1752～1755	天守の大改修を実施
明治 3年	1870	名古屋藩知事・徳川慶勝、名古屋城を引き払う
明治 4年	1871	天守の金鯰一対が屋根から降ろされ、宮内省に献納される
明治 5年	1872	金鯰(雄)が東京湯島の博覧会に出品される 名古屋城が陸軍省の所管となる
明治 6年	1873	金鯰(雌)がウィーン万国博覧会に出品される
明治12年	1879	金鯰が天守の大棟に戻る 名古屋城の保存が決定される
明治26年	1893	本丸が宮内省に移管され、名古屋離宮となる
明治43年	1910	小天守、隅櫓に旧江戸城の青銅製鯰が移される
昭和 5年	1930	名古屋城が宮内省から名古屋市に下賜される 天守はじめ城内の建物24棟が城郭としての国宝第1号に指定される(旧国宝)
昭和 6年	1931	名古屋城の一般公開が始まる
昭和 7年	1932	名古屋市、名古屋城の実測調査を開始
昭和15～16年	1940～41	名古屋市、ガラス乾板による写真撮影を実施
昭和20年	1945	第二次世界大戦中の空襲により天守などが焼失する
昭和27年	1952	昭和実測図が完成
昭和31年	1956	「名古屋城再建準備委員会」、発足
昭和32年	1957	「名古屋城再建後援会」、発足 天守再建工事、着工
昭和34年	1959	天守再建工事、竣工
昭和37年	1962	天守が博物館相当施設に指定される
昭和59年	1984	「名古屋城博」で天守から金鯰をおろす
平成17年	2005	「新世紀・名古屋城博」で天守から金鯰をおろす

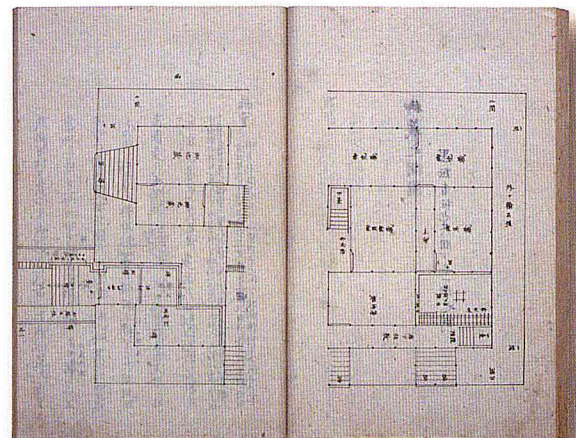
金城温古録

きんじょうこく

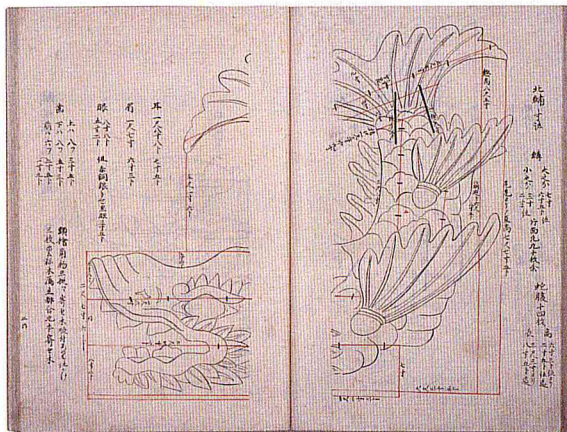
金城温古録は天保13年(1842)尾張藩士・奥村得義^{かつよし}とその養子・定^{さだめ}が藩命により名古屋城の記録を編集した10編64巻におよぶ名古屋城の百科事典といえる資料です。万延元年(1860)に前半部が尾張藩に献上され、明治35年(1902)に後半部が尾張徳川家に献納されました。天守をはじめ御殿、櫓など今は失われた江戸時代の名古屋城の姿を知ることができます。献上本は名古屋市蓬左文庫が所蔵していますが、明治期に作成された写本が、昭和5年(1930)、宮内省から名古屋城とともに名古屋市に下賜され、現在は名古屋城に保管されています。



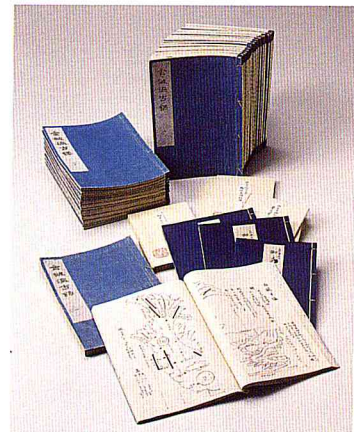
金城温古録 第十之冊 御天守編之二御天守部
「御天守土台石垣大体」
名古屋市蓬左文庫蔵



金城温古録 第十之冊 御天守編之二御天守部
「御蔵之間図」
名古屋市蓬左文庫蔵



金城温古録 第十四之冊 御天守編之六図彙部
「黄金鯪形 御天守鯪木地仕口寸尺之図 北鯪寸法」
名古屋市蓬左文庫蔵

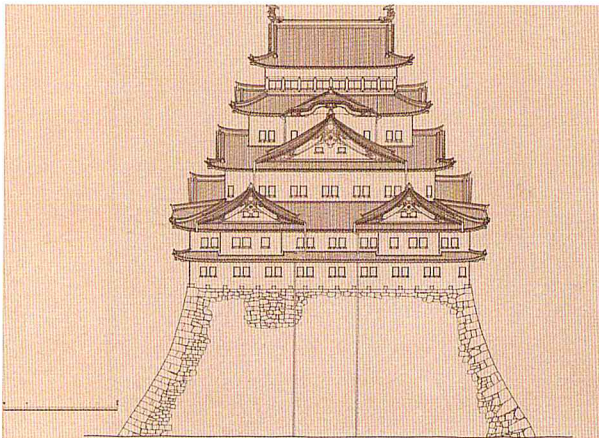


金城温古録
万延元年(1860)~明治35年(1902)原本成立
明治時代写

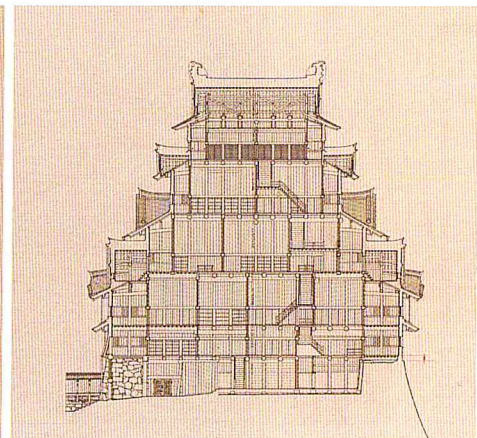
昭和実測図

しやうわじやくしやう

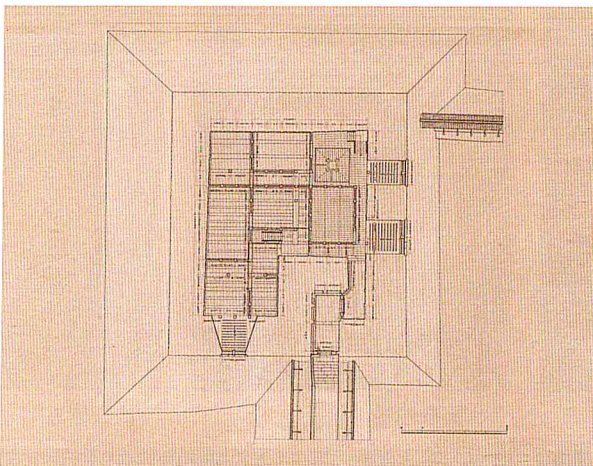
宮内省から名古屋城が下賜された後、名古屋市は昭和7年(1932)から国宝建造物の細部の計測や拓本作成を行いました。実測調査は第二次世界大戦をはさんで昭和27年(1952)に完了し、清書図282枚、拓本貼付27枚、計309枚の図面が完成しました。天守の図面は大天守56枚、小天守15枚、計71枚です。外観、内部断面や平面、金鯱や金具類に至るまで詳細に調査されています。昭和実測図は戦災で焼失した名古屋城を知ることができる貴重な資料であり、現在の再建天守や本丸御殿の復元の基本的資料の一つとして活用されています。



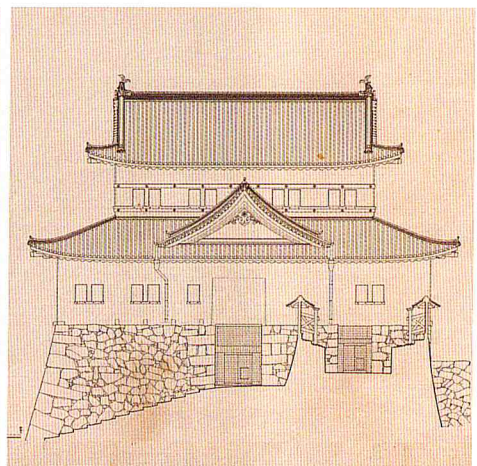
名古屋城天守西側立面図



名古屋城天守縦断面図



名古屋城天守地階平面図



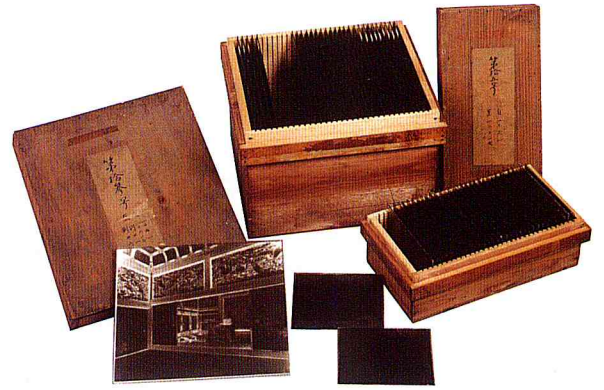
名古屋城小天守北側立面図

* 昭和実測図は「名古屋城公式ウェブサイト」(<http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/>)での閲覧が可能です。

ガラス乾板

がらすかんばん

ガラス乾板は透明なガラス板に感光剤を塗布したもので、戦後にフィルムが普及するまで写真の撮影に使用されました。名古屋市は実測図の作成に加えて、昭和15年(1940)から16年(1941)にかけて



ガラス乾板

を対象とした写真撮影を行いました。ガラス乾板は本丸御殿の障壁画や昭和実測図とともに戦火を逃れ、現在、名古屋城には700枚を超える膨大な量の乾板が残されています。天守の内部を詳細に写したこれらの乾板は他の城郭には見られない貴重な資料であり、在りし日の天守の姿を鮮明に伝えてくれます。



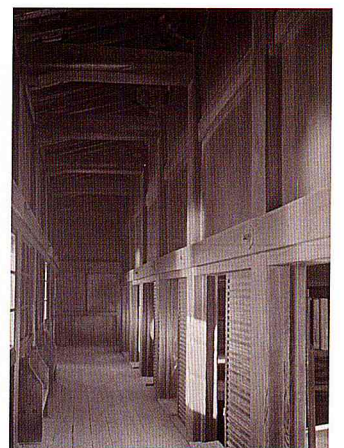
大天守一階 西入側



大天守地階 井戸



大天守四階 階段



大天守五階 西入側

*名古屋城所蔵のガラス乾板の写真は『懐古国宝名古屋城』(財団法人名古屋城振興協会発行)にまとめられています。



編集・発行

名古屋市市民経済局 名古屋城総合事務所

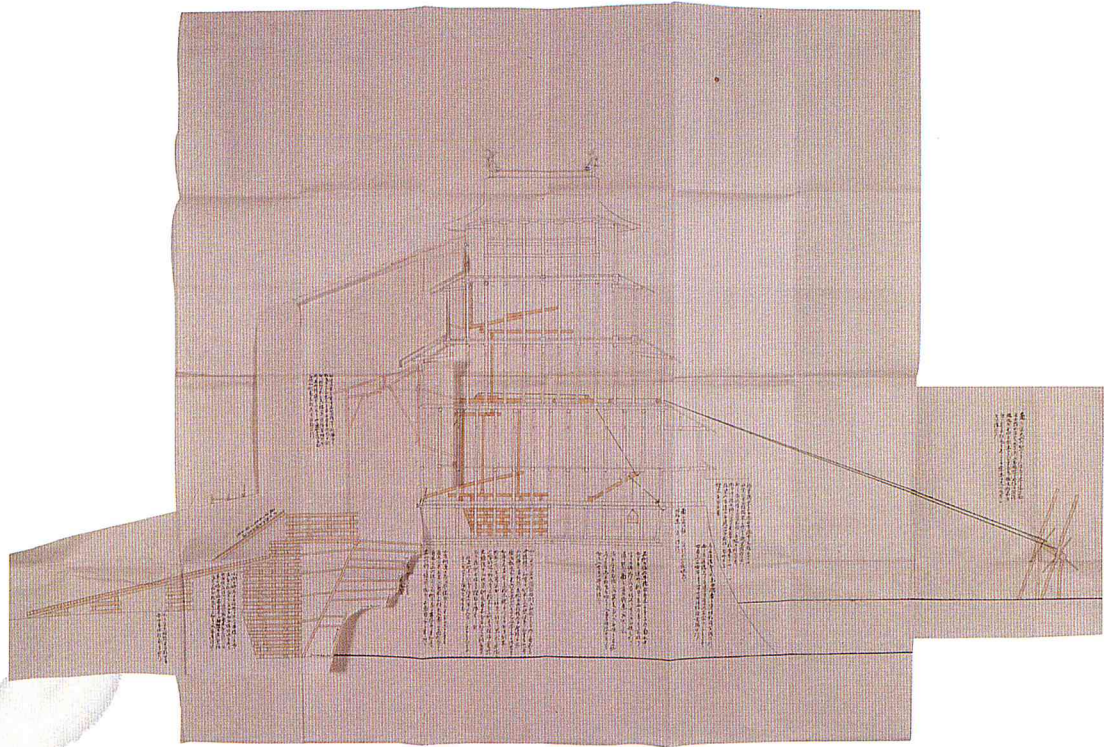
〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号

Tel 052-231-1700

Fax 052-201-3646

<http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/>

宝暦の大改修

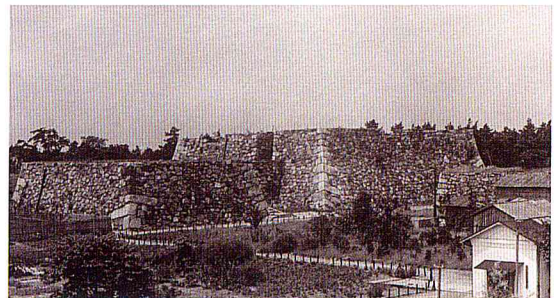


御天守御修復仕様平之方ヨリ見渡之図
宝暦5年(1755)原本成立 明治期写

天守は築城以来、複数回にわたり修理が行われてきました。その中で最も大規模な工事が宝暦2～5年(1752～1755)の大改修です。当時、天守は石垣の不同沈下によって北西側に約40cmも傾斜していました。そこで一部の屋根と壁や内部の床などを解体し、内部に組んだ仕掛けで天守を持ち上げ、東側と南側から仕掛けで綱で引っ張りながら西・北面の石垣を大々的に積み直し、柱の傾斜も修正するという工事が成し遂げられたのです。また、陶製瓦から銅瓦への葺き替え、破風の銅板張りや銅製雨樋の設置など外観も大きく変更されました。

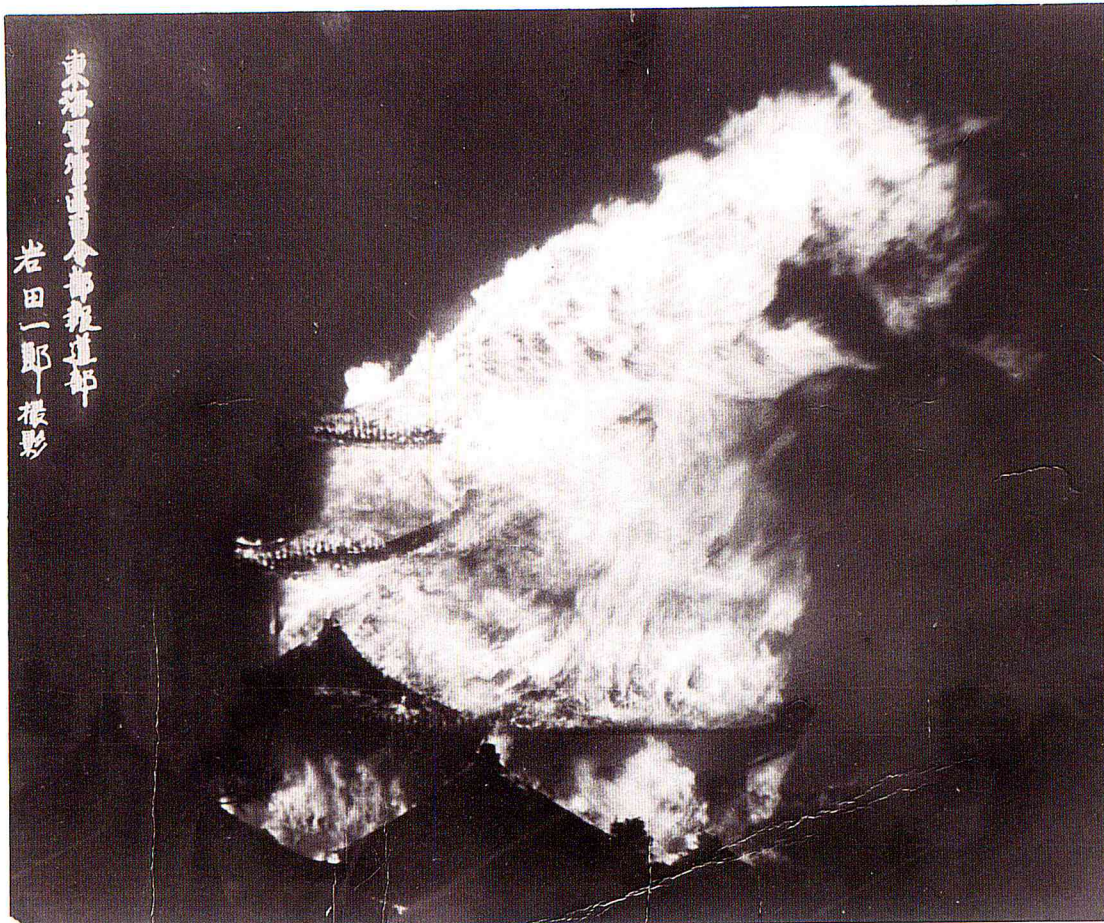
戦災による焼失

第二次世界大戦のアメリカ軍による市街地空襲が激しさを増す中、昭和20年(1945)5月14日、焼夷弾攻撃により天守は炎上。市民のシンボルだった天守は、避難のために屋根



焼け残った天守台石垣

から下ろす途中だった金鯱とともに石垣を残して無残にも焼け落ちました。天守台石垣の石材には、焼け焦げた跡や被熱による破損がいたる所に見られます。



炎上する名古屋城

昭和 20 年（1945）5 月 14 日 東海軍管区司令部報道部 岩田一郎氏撮影
名古屋空襲を記録する会 蔵



しゅうそくしょうういたんどう
収束焼夷弾弾頭

名古屋城に投下された焼夷弾の弾頭

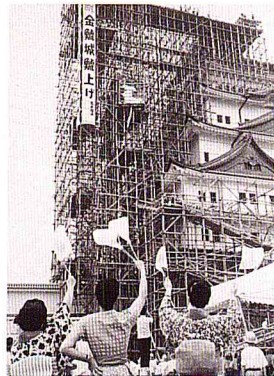


うろこ
金鯰の鱗

空襲の際、焼失をまぬがれた鱗や、それ以前にはがれ落ちた鱗が名古屋城に残されています。

名古屋城天守の再建

戦後、復興が進むと名古屋城再建を願う市民の声が高まり、昭和32年(1957)に再建工事に着手、2年をかけて昭和34年(1959)に鉄骨鉄筋コンクリート造の天守が完成しました。その外観は昭和実測図に基づき、正確に再現されました。また、内部は焼失を免れた本丸御殿の障壁画(重要文化財)や名古屋城に縁のある武具や絵画を展示し、名古屋城の歴史を市民に紹介する博物館としての機能を果たしています。*ただし、展望のため最上階の窓の形のみ変更されています。



鯨上げ式 昭和34年(1959)



鱗を金鯱に設置している様子 昭和34年(1959)

天守の展示



1階 本丸御殿障壁画展示



3階 城内・城下の暮らし



4階 武器武具展示

再建から半世紀以上が経過し、天守には石垣の変形や戦災による石材の劣化、コンクリートの劣化、設備の老朽化、耐震性の確保などさまざまな課題が生じてきています。